



学内広報

No.1324

2005.11.24
東京大学広報委員会



東京大学稷門賞授賞式（11ページに関連記事）

CONTENTS

特別記事

東京大学におけるアスベストの使用状況 …… 2

調達改善の現状と対策—石堂副理事に聞く— … 4

一般ニュース …… 8

鶴尾隆教授 秋の紫綬褒章を受章、柏キャンパス一般公開開催される、知の創造的摩擦プロジェクト第一回交流会「キャリアについて考える」を開催、平成18年度入学者募集要項配付、「東京大学稷門賞」授賞式を挙行、第7回東アジア4大学フォーラム開催される、平成17年度（後期）東京大学学術研究活動等奨励事業（国外）の採択決まる

キャンパスニュース …… 14

WARRIORS関東リーグ1部昇格！、本郷消防署が本学で体験型防災訓練を実施

部局ニュース …… 15

第1回駒場キャンパス技術発表会開催される、富士演

習林創設80周年記念行事が無事終了、教育学部附属中等教育学校で2005年度第2回三者協議会が開催、教育学部附属中等教育学校「ピアノと講演のつどい」、国際交通政策研究ユニット（ITPU）発足、医科学研究所動物慰霊祭行われる、分子細胞生物学研究所動物慰霊祭執行行われる、留学生向け図書館ガイダンスを開催、ICカードによる出欠席管理システムの開発

掲示板 …… 19

山上会館・山上会館龍岡門別館の冬季期間の休館について、平成19年度大学院理学系研究科・物理学専攻修士課程入学試験について、スペクトル化学研究センターシンポジウム開催、総合分析情報学コースの設立について、ArcGISサイトライセンス導入のお知らせ、第1回空間情報科学研究センターGIS講習会、保健センター年末年始の診療日程のお知らせ

EVENT INFO …… 23

淡青評論 大学とイベント …… 24

コラム

Flags運動紹介No.4 …… 13

コミュニケーションセンターだよりNo.8 …… 22

本部職員を対象に家族参加を実施 …… 22

東京大学におけるアスベストの使用状況

本学では、昭和62年6月の文部省（現文部科学省）からの事務連絡に基づき「吹き付けアスベスト」の実態調査を行い、計画的にアスベスト対策を実施してきました。今回文部科学省より、これまで対象とされていた「吹き付け石綿（5%以上含有）」に加えて、アスベストが1%以上含有された「吹き付け石綿」、「吹き付け岩綿」、「吹き付けひる石」および「折板裏打ち石綿断熱材」を対象とした調査の実施が通知され、これらについて調査を行いました。

調査結果

平成17年11月15日現在

調査対象は平成8年以前に建築された建物で、本学の対象建物1,043棟、延べ面積約105万㎡について調査しました。

調査結果は右表のとおりです。吹き付けアスベストを使用していた部屋は188室11,764㎡で全体の約1.1%に当たります。その内アスベストの欠損・剥離の認められる部屋は、13室1,578㎡で全体の約0.2%でした。（この結果は11月15日現在のものであり、分析中の部屋も含まれているため、最終的な調査結果では該当する面積、部屋数が一部減る可能性があります。）

13室の内訳は、人の出入りのある場所としては農学部5号館地下1階実験室、医学部総合中央館（図書館）書庫、その他人の出入りの少ない場所が機械室・倉庫類11室でした。

なお、調査結果は環境安全本部ホームページに掲載しています。

石綿等吹き付け	面積 (㎡)	部屋等 (室)
囲い込み・封じ込め	1,979	44
安定しているもの	8,207	131
欠損・剥離が見られるもの	1,578	13
合計	11,764	188

※ 囲い込み・封じ込め：大気中にアスベストが飛散しないように処理したもの
例）天井の設置、表面に固化剤の塗布など

安定しているもの：アスベストが露出しているが、現状大気中に飛散するおそれがないもの

欠損・剥離が見られるもの：アスベストが露出していて、現状大気中アスベストの飛散のおそれのあるもの

調査結果を受けた対応

調査中にアスベストの欠損・剥離が認められた13部屋については、該当部局に連絡して立ち入り禁止としました。入室の必要がある場合は防塵マスクを着用する等、防護処置を講じたうえで入室することとしています。

このうち農学部5号館地下1階実験室については、環境測定を行った結果空気中のアスベストが大気汚染防止法による基準値（10本/ℓ以下）を大幅に下回る値（0.5本/ℓ未満）であることが確認されました。

また、医学部総合中央館（図書館）書庫についても、仮養生を施し環境測定を行った結果、同様に基準値を大幅に下回る値（0.5本/ℓ未満）であること

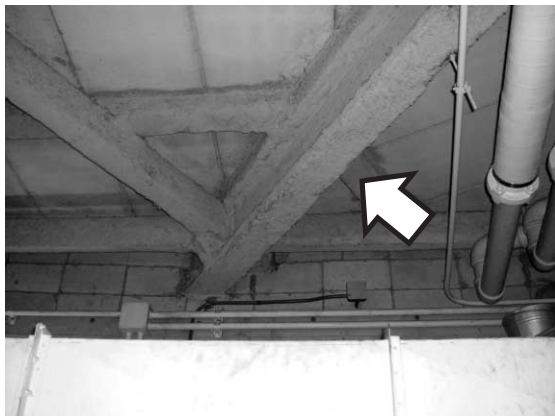
が確認されました。このためこの2室については、防護処置をせずに入室できることとしました。

<環境測定>

現在、アスベストの使用が確認された部屋等については、環境測定を進めており、飛散の有無の確認を行っています。環境測定の結果が判明し次第、該当部局および利用者にその内容をお知らせします。

<対策工事>

また、今回の調査結果に基づき、アスベストの撤去等、対策工事を順次進めています。



吹き付け石綿使用状況例



医学部総合中央館（図書館）書庫天井仮養生写真

アスベスト問題について

本年6月下旬、アスベストを使用していた事業場の労働災害事例が公表されて以来、複数の事例が取り上げられ、従事者のみならずその家族、工場周辺の住民への影響等を含め、大きな社会問題になっていることをご承知のことと思います。アスベストによる健康影響は潜伏期間が数十年と長いこともあり、長期にわたる適切な対応が必要であり、本学としても、アスベスト使用状況の現状把握と建築物についての安全措置の徹底に取り組んでいます。

<アスベストとは>

アスベストは、石綿（せきめん、いしわた）とも呼ばれる天然の鉱物繊維です。

耐熱性、耐薬品性、絶縁性等の特性があり、安価な工業材料であったため、建築資材、電気製品、自動車、家庭用品等に使用されてきました。しかし、アスベストはその繊維が極めて細いため、大気中に飛散しやすく、吸入されやすい特徴があります。アスベストそのものには毒性はありませんが、吸入すると繊維は肺の中に残り、肺がんや中皮腫、石綿肺の原因になります。現在問題となっているアスベストによる健康障害の多くは、過去の様々な場面での職業的暴露（職業上アスベストにさらされること）に起因するものです。

アスベストはその9割以上が建材製品や建築物の吹き付け耐火施工に使用されています。このほか、自動車のブレーキ、電線被覆材、器具の断熱材、シーリング材に使われてきました。しかし、アスベスト使用は昭和50年の吹き付け作業禁止以来、段階的に禁止又は使用中止されてきており、現在では使われておりません。但し、現時点では代替が難しい化学プラント等のシール材等に限り使用が認められていますが、これらも2008年には全面的に使用禁止になる予定です。

<石綿の種類>

	分類	石綿名	備考
石綿	蛇紋石系	クリソタイル（白石綿）	建材等の製品については労働安全衛生法に基づき製造・輸入等禁止
		クロシドライト（青石綿）	
	角閃石系	アモサイト（茶石綿）	労働安全衛生法に基づき製造・輸入等禁止
		アンソフィライト	
		トレモライト	
		アクチノライト	

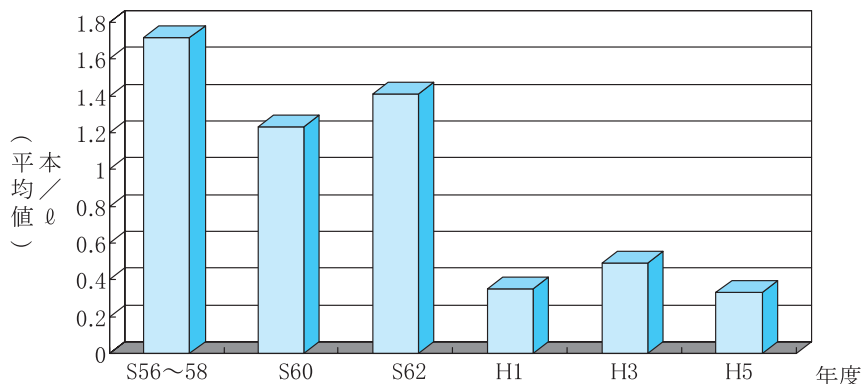
<アスベストの大気中の濃度>

アスベストの環境中の濃度は都内、一般大気中では約0.2本/ℓ程度が検出されています。一方、大気汚染防止法では工場敷地境界での濃度は10本/ℓ以下と規定されています。ただし、昭和50年以前に建設した建物が今後寿命を迎え、その解体工事の際に飛散する恐れがありますので、解体工事の届出、飛散防止が義務づけられています。

既存の建物について、吹き付けアスベスト等の劣化損傷によりアスベスト飛散の恐れがある場合は、立ち入り禁止措置や暴露防止のための措置が求められています。しかし、通常の状態では室内にアスベスト繊維が飛散する可能性は低いと言われています。

<同一地域における継続測定結果>

（資料：環境省）



本学におけるアスベスト問題についてのご質問は環境安全本部にお寄せ下さい。
（内線）21051、21052

また、アスベストに関連した健康面についてのご質問は保健センターにお願いします。

本郷支所
（内線）22579、22580
駒場支所
（内線）46180、46166

このたび、かねてより調達本部が進めてきた調査・分析の結果として「調達改善の第一段階として早急にとるべき対策の概要」がまとまった。そこで、本学の「調達」をめぐる現状および具体的な対策等について、石堂正信副理事にうかがった。

―― 今日（今年4月）にスタートした調達本部の現状について副理事にうかがいたいと思います。まず、法人化元年ではなく2年目になってから調達本部が設立された経緯からご説明いただけますか？

石堂正信副理事（以下、石堂） 法人化に向けて平成15年12月に財務分析室がスタートし、調達の改善も財務分析室の課題のひとつとして掲げられていました。法人化の1年目はこれをどのように進めるか、考えているうちに過ぎてしまったというのが実態です。もう一刻の猶予もならないということで、あらためて独立の調達本部を設置し、この面に特化した活動を押し進めることとなったわけです。



―― さて、そのような調達本部の業務を支える陣容はどんな方々で構成されていますか？

石堂 すでにご存じと思いますが、調達本部長が西尾理事・副学長、私（石堂）は副本部長という立場です。そして財務部の中に、12名の調達グループがおかれています。ただ、おおまかにいうと12名のうち、7名は日々従来型の契約の実務に、また2名は全学の旅費計算に従事していますので、調達改善の企画に専念できる員数は限られます。今後、調達の仕組みが変化していくと、従来型の契約事務と置き変わっていくこととなりますが、当面は新旧並行のような感じになります。そこで9月からは、財務分析室の室員も兼務の形で加わって貰うこととして陣容の強化を図っています。

◆ 「調達」とは？

「調達」とは、学外に費用を払って物品を購入したり業務を委託したりすることを言います。皆さんが学内業務で使う事務用品、パソコン、新聞などを購入するのも「調達」ですし、学内の清掃、警備、設備保守などを業者さんに委託するのも「調達」です。また、実験用の物品、医薬品、光熱費などの公共料金も「調達」に含まれます。つまり、外部に対してコストが発生するものをまとめて「調達」と呼んでいます。

◆ 「調達改善」とは？

「調達改善」とは、たとえば、同じ物品をまとめて一括購入することや複数業者を参入させて競争環境を作ることによってコストを抑制しようとするものです。国立大学法人化にともなって様々なコストを節約する必要性が高まってきました。本学の中期計画には「経費の抑制に関する目標を達成するための措置」のひとつとして、購買方法の見直しによる物品調達コストの抑制が挙げられています。

まずは調達実績の調査から

―― 法人化1年目に改善が進まなかったというのは何か、事情があつたのでしょうか？

石堂 法人化時に契約規程も他の規程同様にほとんど国の時代のままで移行したということも影響しましたが一番大きかったのは改善を考えるうえで欠かせない過去の調達実績のデータベースがなかったことです。言い換えると、東大の物件費がどんなことに使われているのか、何をいくらでどのくらい調達しているのかが、請求書、納品書、領収証といった紙に書かれた一枚一枚の記録という形でしか存在しなかったということです。調達の改善といっても、「人・モノ・金」を費やして実施するわけですので、やみくもに何でもいからやってみよう



というわけにはいきません。ある程度調達の具体的な内容を把握し、重点的に取り組む分野を特定して取りかかることが必要です。データベースの欠如は、まさしく「取りつく島がない」状況だったわけです。

―― なるほど。そのような事情が……。それで、実績の把握は一体どうなりましたか？

石堂 当初は、購入した物品を学内に運び込む運送業者さんの所にデータの蓄積があるんじゃないかなどと考えたりもしたのですが、結局は膨大な紙のデータを自力で調査する以外に手だてはないというのが結論でした。そこで、昨年秋から財務分析室で一部の調査を始め、今年の5月以降16年度決算が締まった後に、大きな部局を中心に9部局の協力を得て、かなり大がかりに物件費の実績調査を行いました。

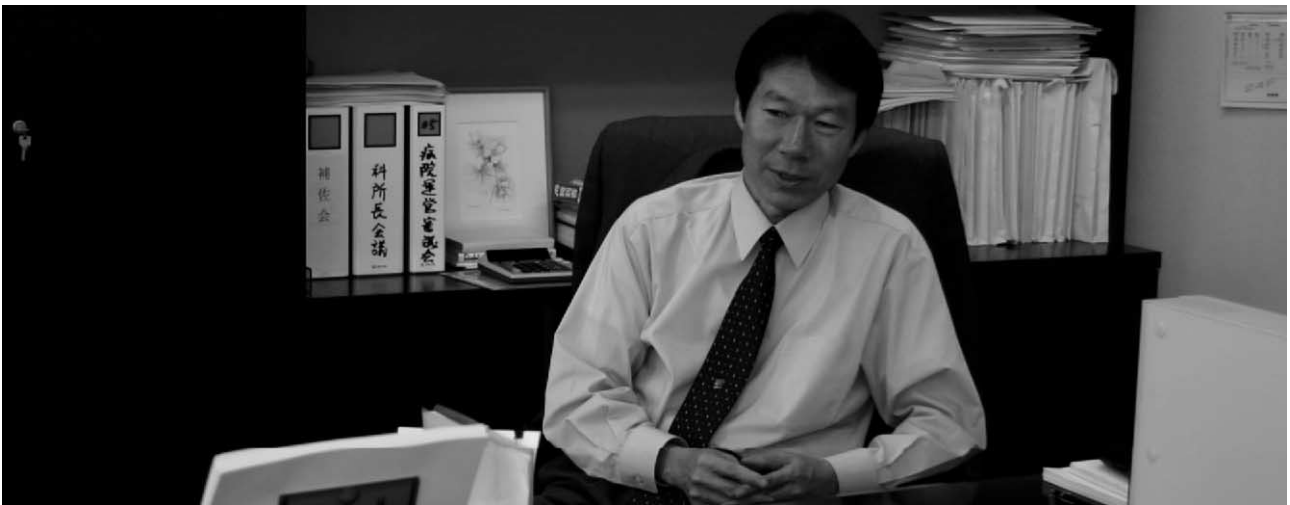
—— 調査結果はいかがでしたか？

石 堂 大まかな分類ではありますが、調達分野別の構成が把握できました。ただ、その結果として調達改善にはなじみにくい専門的な分野、研究実験用の機材といったものが大きな比率を占めていることもわかりました。

調達の改善の方法は、まずひとつには「バラバラに行われている同種契約の集約」によるスケールメリットの創出であり、もうひとつは「新規業者の参入を実現することで競争原理がよりよく機能する仕組みを作ること」だと考えています。従って、余りに専門的な分野とか特殊な実験器具といったものは、なかなかこの改善手法にはなじみません。そういったことを考慮しながら今回の実績調査結果から当面調達本部が主たるターゲットとすべき分野を抽出したのが、7ページの表です。

「同種契約の集約」と「新規業者の参入」

—— 東大の16年度決算では、物件費トータルが731億円だったと思いましたが、調達改善の対象となるのは、このうちのどの部分でしょうか？



—— 「新規業者の参入」というのは、これまではなかったことなのですか？

石 堂 国の機関であったときも、一定の参加資格要件を満たせば、原則としてどの業者も参入自由でした。また、これまで契約参加に何らかの支障があったという証拠もありません。しかし、契約実績を調べると、ほとんど同じ顔ぶれの業者が続いていたり、たまたま新規業者が参加したときに大きく契約額が下がったという現象も指摘できます。調達本部として、各種契約分野について積極的に新規業者を開拓し、参入を促して既存業者の方々と競っていただく環境を整えたいと思っています。

石 堂 731億円は、科研費を別として、東大の全財源から支出された物件費のトータルです。そのうち授業料、病院収入といった大学の自己収入と、運営費交付金等の国費—いわゆる「大学運営費」に対応する物件費部分が、次のページの円グラフに示した461億円となります。

調達本部としては、そのうち、ここに掲げられた汎用品の購入、どのキャンパスにも共通する役務契約といった分野、推定実績規模160億円を対象に、集中的に対策を講じていきたいと考えています。

—— 「同種契約の集約」というのは、すぐにもできそうに思えますが……。

石 堂 一見簡単そうなのですが、これまで各部局ごとにそれぞれ独特の仕様で契約してきており、契約書の内容もバラバラです。また、細かく見ていくと、ひとつの契約に含まれる内容の範囲も一致しているとは限らず、単純に寄せ集めるだけでは集約にならないのが実態です。各部局において契約書を収集し、地道に内容を精査するところから始めています。

調達改善の目標と課題

—— 調達本部の活動では、今後どのくらいのコストダウンを見込んでいるのですか？

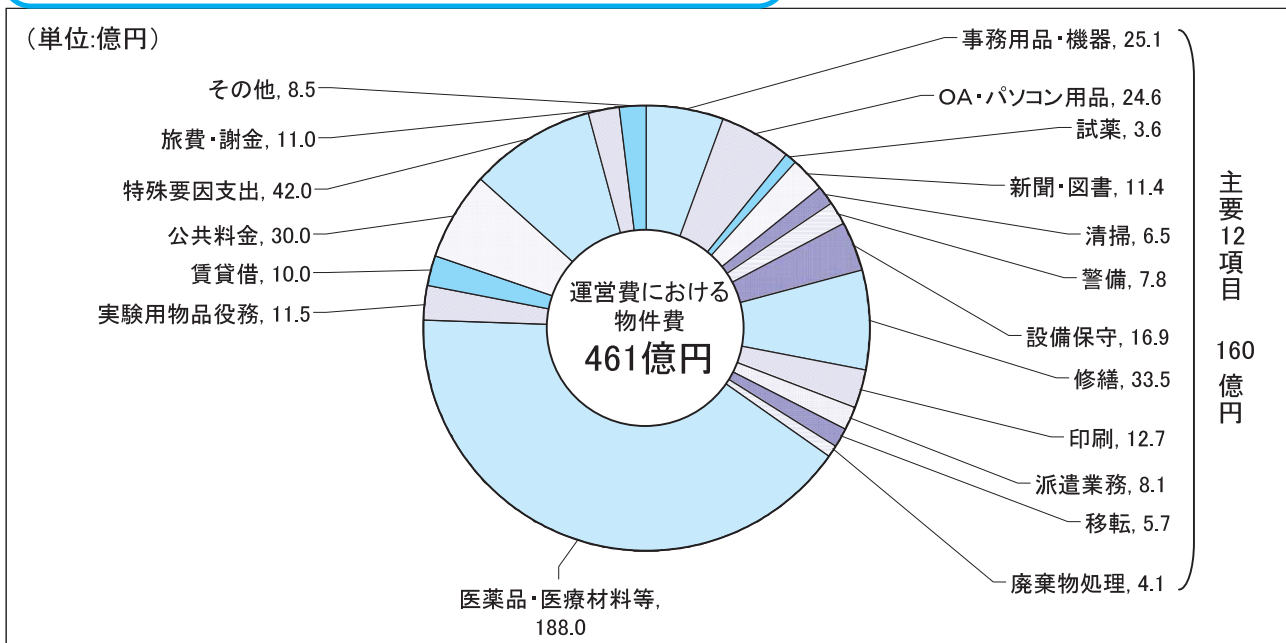
石 堂 ひとつの事例に過ぎませんが、過去の調達実績を調査した中でOAパソコン用品について外部のコンサルタントに価格診断をもらったところ、調達方式の改善で10%以上の削減が可能であろうということでした。購入物品、役務の内容、またこれまでの契約の経緯により、今後の価格削減可能性の幅は個々に異なると思われますし、各分野ごとに改善案を検討している段階ですが、当面、18年度には10億円程度の効果を目指したいと思っています。

—— では調達改善に取り組むうえでの問題点は何かありますか？

石 堂 調達本部は立ち上がりましたが、政府調達といった特殊なものを除いて契約の権限と要員は各部局に残されたままです。改善の実施に向けて、調達本部と部局間の業務の一部持ち替えのようなことが必要になってきます。また、改善方法によっては、現行の契約規程に抵触する場合も出てきます。最終的には、契約関係規程の抜本的改正が必要になると思われますが、当面は、順次個別の具体策に必要な範囲で特例措置を認めてもらうようなかたちで、改善実施を急ごうと考えています。

また、調達方法の改善によるコスト削減効果は、当然のことながら改善方式が全学的に実施されないと、まさしく「絵に描いた餅」に終わります。例えば新しい物品購入方式として「集中購買」を考えますと、業者さんによるこれまでの「御用聞き」スタイルに対し、パソコンを通じるネット発注のように発注者サイドの手数が増えることも考えられます。それが原因で新方式の利用が控えられることになれば、期待した効果は得られません。調達改善の効果は、各部局、実際に契約権限を行使する現場での対応に大いに左右されるものでもあるわけです。

平成16年度大学運営費決算(9部局の調査に基づく推計値)



すでに開始された調達改善

—— すでに実施された具体策もあるのですか？

石 堂 「お膝もと」という言い方は変ですが、8月から本部棟での文房具・雑貨の調達業者を試行的に一元化して、ネットを介した注文に切り替えました。その実施状況を精査したうえで、全学に適用すべき方式に結び付けたいと考えています。また、全学では大変な額にのぼる印刷、これはサプライヤーの集約にはなじまない分野と思われまますので、ひとつひとつの案件に対して、新規業者の参入を促すとともに、印刷作業行程ごとの単価の見直しを図っています。まだ数件ですが、すでに本部の案件を処理し、効果もあがっています。10月からは額の大きな印刷物の発注業務を調達本部に移管して頂くよう各部局にお願いしています。

—— 着実にコストダウン効果があがるよう期待しています。

石 堂 調達改善の方法として、契約の集約によるスケールメリットと新規業者の参入による競争原理の機能アップを掲げましたが、その次の段階として、調達内容そのもの見直しがあります。つまり各種契約における仕様の見直し、数量的な再検討です。調達本部として学内の契約内容全体を把握する中で、リーズナブルな標準化の実現により、さらにもう一段のコストダウンを実現したいと思っています。

—— 石堂副理事、どうもありがとうございました。

～お知らせ～

調達改善の具体的な取組については、次号以降の学内広報において、調達本部からのコラムとして逐次紹介していく予定です。

調達改善活動への取組み

区分	改善方法	節減効果判定の基本的な考え方	調達改善によるコスト節減目標額(平成18年度)				
			全部局推定調達額(大学運営費)	コスト節減率の考え方	コスト節減率	節減目標額(大学運営費)	
物 品	事務用品・機器	<p style="text-align: center;">集中購買(競争入札)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤーの絞込み。(パソコンは機種の一括化が容易でないと考えられるので、サプライヤーの絞込みが販売店レベルとなる。) ・Webによる集中購買を本部で実施後、各部局へ展開 ・特定品目(ファイル、記録メディア、蛍光灯等)については、それぞれの品目毎に単価契約の方法を検討。 ・上記の成果を踏まえて、18年度中にマーケットプレイス方式に移行も検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カタログ価格、店頭表示価格等の一般販売価格または業者希望価格との比較 	(概算:億円) 25.1	<ul style="list-style-type: none"> ・本部でのWebによる集中購買の実績値引率(全学展開時には、システム利用率により大きく左右される。) 	10%	(概算:億円) 4.0~5.0
	OA・パソコン用品			24.6			
	試薬	<p style="text-align: center;">集中購買(店舗販売)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤーの絞込み ・試薬販売拠点の設置を検討。(本郷キャンパス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・カタログ価格、店頭表示価格との比較 	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗設置による売上集中に伴う割引として10%程度を見込む 	10%	0.4
	新聞・図書	<p style="text-align: center;">現状通り</p> <p>図書に関して、「全学資料購入集中処理システム」(実施済み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・従前の10%の値引とシステム利用16%値引との比較 	11.4	<ul style="list-style-type: none"> ・集中処理システム利用図書については、利用率の増大による見込額 	6%	0.1
役 務	清掃	<p style="text-align: center;">集中購買(競争入札)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤーの絞込み ・契約単位の集約(最大限キャンパスごと) <p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外清掃・スポット契約等のどこまでを一括契約に含められるか、また、含めることが適当なのかを検討する必要あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回契約額との比較 	(一般) 3.5 (病院) 3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・大手サプライヤーの見積額より推計 ・病院清掃、一般清掃で区分 	(一般) 10% (病院) 5%	0.5
	警備	<p style="text-align: center;">集中購買(競争入札)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤーの絞込み ・契約単位の集約(最大限キャンパスごと) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回契約額との比較 	7.8	<ul style="list-style-type: none"> ・大手サプライヤーのヒヤリングにより、ほぼ清掃並みと推計 	7.5%	0.6
	設備保守(点検・監視)	<p style="text-align: center;">集中購買(競争入札)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤーの絞込み <p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設係のある部局の取り込みが可能か、同種契約の一本化はどこまで可能か検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回契約額との比較 	16.9	<ul style="list-style-type: none"> ・大手サプライヤーのヒヤリングより推計 	5%	0.8
	修繕	<p style="text-align: center;">発注都度競争入札</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定規模以上の調達については、サプライヤー及び価格決定業務を本部へ集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初見積額と実契約額との比較 	33.5	<ul style="list-style-type: none"> ・設備保守に準じ、本部集約分を考慮し推計 	3%	1.0
	印刷	<p style="text-align: center;">発注都度競争入札</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規サプライヤーの導入 ・サプライヤーからの見積様式の統一化(改善)により、工程別に価格を原単位化。(この統一様式を継続使用することにより契約担当のスキルアップも期待できる。) ・一定規模以上の調達については、サプライヤー及び価格決定業務を本部へ集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・(継続)前回契約額との比較 ・(新規)当初見積額と価格折衝後の最終見積額との比較 	12.7	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の本部集約分は全体の約37%とみて、本部試行実績より推計 ・本部契約△20%、部局契約△5%の見込 	(本部) 20% (部局) 5%	0.9 0.4
	派遣業務	<p style="text-align: center;">集中購買(競争入札)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤーの絞込み ・ボリュームに応じて集約化によるコストダウンは可能。但し、急成長の分野であり、需給逼迫により、単価は上昇傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回契約額(時間給)との比較 	8.1	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の本部集約分は全体の約30%とみて、本部集約によるスケールメリットを見込んだ 	5%	0.1
	移転	<p style="text-align: center;">発注都度競争入札</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規サプライヤーの投入 ・移転費については、サプライヤー及び価格決定業務を本部へ集約(宅配便は、実績額が少ない。大量郵便物への対応は、印刷に含めて検討。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(新規)当初見積額と価格折衝後の最終見積額との比較 	5.7	<ul style="list-style-type: none"> ・17年度移転部局の参考見積より推計 ・18年度3部局予定 	10%	0.3
	廃棄物処理	<p style="text-align: center;">現状通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の指定業者が自治体が定めた処分費に運搬経費等を上乗せした額にて契約しているが、実際の請負額は処分費のレベルにあり、これ以上の競争は難しいと考えられる。 		4.1	現状通り	0%	0
合 計				160.0			9.1~10.1

※コスト削減目標額は、平成16年度を基準点としている。

鶴尾隆教授 秋の紫綬褒章を受章

分子細胞生物学研究所の鶴尾隆教授が本年秋の紫綬褒章を受章されました。鶴尾隆教授は、癌化学療法学の分野において、抗癌剤多剤耐性をはじめとする抗癌剤耐性の分子機構を解明し、さらにその分子機構を標的として抗癌剤耐性を克服する治療法を開発することにより、癌分子標的治療の発展に多大な貢献をしてきました。



まず抗癌剤多剤耐性の研究では、耐性癌細胞の細胞膜にP糖蛋白質が発現し、多くの抗癌剤を細胞外に排出するポンプとして機能していることを明らかにしました。このP糖蛋白質の機能を阻害することにより多剤耐性を克服できることを世界で初めて証明し、MS209など耐性克服薬を開発しました。またP糖蛋白質の生理機能の研究では、P糖蛋白質が脳毛細血管内皮、肝臓、腎臓等に発現しており、脳毛細血管内皮のP糖蛋白質が血液脳関門として機能していることを明らかにしました。これはP糖蛋白質をはじめとするABCトランスポーターが薬剤の体内動態制御に重要な機能を持つことを示した研究であり、その後の薬剤相互作用研究の分子基盤を解析する道を拓きました。

抗癌剤による細胞死の研究では、カスパーゼ活性化が抗癌剤によるアポトーシスに必要であることを明らかにし、アポトーシス制御機構の異常が抗癌剤耐性の原因となることを示しました。またPI3K-PDK1-AKTなどの細胞生存シグナルによりアポトーシスが抑制され、この経路の細胞生存シグナルが癌治療の新しい分子標的となることを明らかにしました。疾患遺伝子研究では癌のテーラーメイド治療を目指した遺伝子解析を行い、癌細胞の遺伝子発現プロファイルを解析することによりグリベック等の抗癌剤が効く癌と効かない癌を診断する技術を開発しました。

以上のように鶴尾教授の研究は、抗癌剤が効かない難治性癌の治療に論理的道筋をつけた業績として国際的に高く評価されています。また、鶴尾教授は文部科学省癌特定領域研究の総括責任者等を務め、日本の癌研究全体の推進においても多大な貢献をしました。

(分子細胞生物学研究所 内藤幹彦)

柏キャンパス一般公開開催される

10月28日(金)、29日(土)の両日にわたり柏キャンパス(新領域創成科学研究科、宇宙線研究所、物性研究所、人工物工学研究センター、空間情報科学研究センター、高温プラズマ研究センター、気候システム研究センター、環境安全研究センター柏支所、柏図書館)及び柏IIキャンパス(生涯スポーツ健康科学研究センター)において、一般公開が開催された。



キャンパス正面の横断幕

この一般公開は、地域・社会との連携・交流や知的啓発を目指して、柏キャンパスへ移転した当初から実施されてきたものである。特に6年目となった今年は「つくばエクスプレス」が開業して、柏の葉キャンパス駅からの送迎バスも運行され、好評であった。



送迎バスから会場に向かう来場者

公開内容はキャンパス主催の特別講演会(柏図書館)開催をはじめ、各部局とも、日頃の研究成果の紹介、実験コーナー、特別企画及び講演等、それぞれ特色ある催しが行われた。特に、物性研究所及び新領域創成科学研究科基盤棟で行われた「ガイドツアー(スタッフによる見どころ案内)」は、毎回、参加者多数で好評であった。



ガイドツアーで実験室に向かう来場者

両日とも家族連れが目立ったが、特に1日目は、学校行事として貸切バスで訪れた高校生をはじめ、千葉県内のみならず近県からも多数訪れた中・高校生が熱心にメモを取るなど、課外授業のような雰囲気であった。



分光器の説明に興味深く聞く高校生

首都圏新都市鉄道(株) (つくばエクスプレス)をはじめ、柏市、流山市など地域の方々の協力による宣伝効果もあり、また、天気予報では雨とされていた2日目が一時的な小雨程度であったこともあり、2日間を通して約4,000名もの方々が訪れ、地域に開かれたキャンパスの雰囲気が感じられた。

来場者はキャンパスの広さ、建物の斬新さや先端研究についての丁寧な説明や展示、実験体験等に大いに感心している様子で、皆さん、満足げな表情をされていた。



実験コーナーで楽しむ子供たち

学生部 知の創造的摩擦プロジェクト第一回交流会 「キャリアについて考える」を開催

10月29日(土)、本郷キャンパス御殿下記念館ジムナジウムにおいて、学部学生及び大学院学生を対象とした知の創造的摩擦プロジェクト第一回交流会「キャリアについて考える」が開催された。



若手卒業生を囲んで語り合う本学在校生達

交流会の第I部は「キャリアについて」、第II部は「人生について」をテーマに、研究者、官公庁、法曹界、産業界等のグループに分かれて、若手卒業生と学生による活発なディスカッションが交わされた。会の途中、外国出張から帰国直後の小宮山総長が会場に駆けつけ、激励の言葉を述べた。

交流会後の懇親会では、交流会で聞き足りなかったこと、話し足りなかったことなど、各テーブルに歓談の輪が広がった。なお、参加者は、若手卒業生102名と、在学生260名の合計362名であった。



激励の言葉を述べる小宮山総長

学生部

平成18年度入学者募集要項配付

平成18年度の本学の入学者募集要項が決定し、11月15日（火）から入学志願者に交付されている。

募集人員、試験期日、試験場、合格発表日などは次のとおりである。

<募集人員>

募集人員(人)	前期日程(人)	後期日程(人)
文科一類	415	373
文科二類	365	327
文科三類	485	432
理科一類	1,147	1,025
理科二類	551	492
理科三類	90	80
計	3,053	2,729

<出願期間>

平成18年1月30日（月）～平成18年2月7日（火）

<試験期日>

前期日程：平成18年2月25日（土）・26日（日）・27日（月）

後期日程：平成18年3月13日（月）・14日（火）

<試験場>

●前期日程

科 類	第2次学力試験試験場
文科一類 文科二類 文科三類	東京大学 教養学部
理科一類 理科二類 理科三類	東京大学 法・文・経済・教育・薬 医・理・工・農の各学部

●後期日程

科 類	第2次学力試験試験場
文科一類 文科三類 理科二類 理科三類	東京大学 法学部
文科二類	東京大学 経済学部
理科一類	東京大学 工学部

<合格発表>

●第1段階選抜合格者発表

前期日程：

合格者発表は、平成18年2月14日（火）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示する。

後期日程：

合格者発表は、平成18年3月10日（金）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示するとともに、電子郵便（レタックス）により合格者には「合格通知書」を、また、不合格者には「不合格通知書」を送付する。

●合格者発表

前期日程：

合格者発表は、平成18年3月10日（金）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便（レタックス）により「合格通知書」を送付する。

後期日程：

合格者発表は、平成18年3月22日（水）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便（レタックス）により「合格通知書」を送付する。

<募集要項交付場所>

●本郷地区

正門、赤門、広報センター（龍岡門）、コミュニケーションセンター（赤門脇）、東大生協（安田講堂売店、書籍部）

●弥生地区

農学部正門

●駒場地区

教養学部正門、東大生協売店

※ 東京大学ホームページからも請求できる。

<テレホンサービス>

募集要項の請求方法（郵送）、出願状況（出願者数及び倍率）並びに追加合格の有無等について、テレホンサービス（電話番号：03-3818-9900）を行う。

研究協力部

「東京大学稷門賞」授賞式を挙行



受賞記念品

平成17年度前期「東京大学稷門賞」の受賞者が下記のとおり、安田弘様及び東京電力株式会社様に決定し、11月8日（火）17時30分から武田先端知ビル武田ホールにおいて授賞式が挙行された。本表彰は、私財の寄付、ボランティア活動及び援助等により、本学の活動の発展に大きく貢献した個人、法人又は団体（現に在籍する本学の教職員及び学生は原則として対象外）に

対し授与するものであり、前期、後期の年2回行っている。授賞式においては、選考結果の報告、各受賞者への表彰状及び記念品の贈呈があり、その後、総長の挨拶、受賞者からの挨拶が行われた。また、授賞式に引き続き、同ビル「ホワイエ」においてレセプションが行われ、受賞関係者と本学関係者との懇談が和やかな雰囲気の中で行われた。



安田不動産 顧問・安田弘氏（写真右）
東京電力 取締役副社長・服部拓也氏（写真左）

◎ 受賞者

1 安田 弘 様

授賞理由：東洋文化研究所に安田弘氏の祖父である安田善次郎氏が収集した「安田文庫」旧蔵の『正平版論語』等重要文化財級の貴重古典籍11点の寄贈。

2 東京電力株式会社 取締役社長 勝俣 恒久 様

授賞理由：大学院工学系研究科にエネルギーの供給から利用にわたる工学研究分野において継続的に寄付講座（エネルギー極限工学寄付講座（平成2～6年度）、極限環境材料構造信頼性工学寄付講座（平成9～13年度）、建築環境エネルギー計画学寄付講座（平成16～19年度））の設置支援を受け、エネルギー問題に関する本学の様々な研究分野の発展に寄与し、同研究科の研究教育活動に大きく貢献。

研究協力部

第7回東アジア4大学フォーラム開催される



フォーラム会場の様子

10月28日（金）、第7回東アジア4大学フォーラムがソウルで開催された。このフォーラムは、東京大学、北京大学、ソウル大学校、ベトナム国家大学ハノイ校の4大学間で、教育、研究をめぐる議論を積み重ねていくことを目的として、1999年より毎年開かれているものである。今年度は「東アジアの持続的開発（Sustainable Development in East Asia）」を全体テーマとして活発な議論が展開された。



小宮山総長による基調講演

開会后、まず小宮山宏総長など4大学の学長による基調講演が行われた。小宮山総長は、21世紀の学術界にとっては、世界的普遍性と文化的多様性の双方を追及し、総体として地球環境の持続性に貢献するため、知識の構造化が必要であることを論じた。続く第1セッションでは、「東アジアの持続的開発」をめぐる報告および討論が行われた。本学からは、木村秀雄総合文化研究科教授（「人間の安全保障と持続的開発」）、横山伸也農学生命科学研究科教授（「バイオマス・アジア戦略実現のための

R&D)が報告を行い、セッションの最後に丸山真人総合文化研究科教授が総括コメントを述べた。第2セッションでは、「4大学の役割」をテーマに、本学の内野儀総合文化研究科教授の報告('What Is CWP? Academic Writing Education in the 21st Century')をはじめ、大学教育の現状や将来をめぐる議論が交わされた。会議終了後の晩餐会においては、各大学の学長により、今後の4大学間の交流への期待が表明された。



教養教育に関する意見交換

なお、会議前日の10月27日(木)には、ソウル大学校と東京大学の教員間で、教養教育に関する意見交換のための会合が開かれた。本学の古田元夫理事(副学長)、刈間文俊総合文化研究科教授、木村秀雄教授、丸山真人教授により、駒場における教育、研究の様々な試みが紹介されたのち、両大学がともに抱える課題について議論が交わされた。また、この機会に、ソウル国立大学と東京大学の国際交流協定の更新協定に両大学の学長が署名を行った。さらに、新たに高麗大学と東京大学の学術交流協定が交わされることとなり、高麗大学において両大学の学長が署名を行った。高麗大学においては、小宮山総長が知識の構造化などについて1時間程度の講演を行い、工学部の学生など200人余りが集まった。

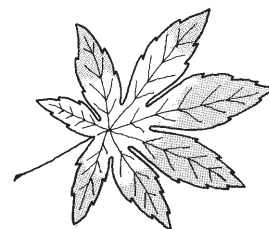
研究協力部

平成17年度(後期)東京大学学術研究活動等奨励事業(国外)の採択決まる

本学大学院学生の国外における研究活動の活性化を図るため、平成16年度後期より実施された「東京大学学術研究活動等奨励事業(国外)」に関して、このほど東京大学学生生活委員会において、平成17年度後期(平成17年12月～平成18年5月出発)応募者の審査が行われ、63件の実施計画が採択された。応募者は114名であった。なお、研究科別の応募及び採択状況は以下のとおりである。

研究科名	応募者数	採用者数	主な渡航先
人文社会系研究科	12	6	ペルー、アメリカ、フランス、ドイツ、韓国、ロシア
教育学研究科	2	2	中国
法学政治学研究科	1	1	フランス
経済学研究科	1	1	中国
総合文化研究科	19	8	アメリカ、フランス
理学系研究科	16	8	インド、アメリカ、タイ、イギリス
工学系研究科	24	13	ギリシャ、カナダ、アメリカ、イタリア、タイ、韓国
農学生命科学研究科	14	7	アメリカ、フィリピン、カンボジア、フランス、タイ、ラオス
医学系研究科	8	6	ラオス、モンゴル、アメリカ
薬学系研究科	4	2	アメリカ、フランス
数理科学研究科	0	0	
新領域創成科学研究科	8	5	イギリス、アメリカ、トルコ
情報理工学系研究科	4	3	トルコ、スペイン
学際情報学府	1	1	アメリカ
公共政策学教育部	0	0	
合計	114	63	

なお従来、募集・選考及び決定は東京大学学術研究奨励資金実施委員会が行っていたが、同委員会は9月末日をもって廃止となり、今回の募集から東京大学学生生活委員会が本奨励事業を引き継ぐこととなった。



硬式野球部

我々硬式野球部は、大学野球の聖地とも言える神宮球場で行われる、東京六大学野球リーグで戦っています。六大学野球リーグはプロよりも長い歴史を持ち、また数多くのプロ野球選手を輩出してきました。

こうした高いレベルの中で野球ができることは喜びである一方で、推薦制度のある他校に対しては、やはり苦戦を強いられることがあります。さらに、同一チームから2勝しなければならない勝ち点制が、上位進出への壁となっています。事実、昨年は年間5勝、今年は2勝と、勝ち星自体は挙げているものの、2002年秋以降6シーズン勝ち点から遠ざかっています。

この現状を開眼するために、我々は日々汗を流しています。弥生地区硬式野球場で、基本的には平日は午後から、土日は丸一日という形で練習しています。平日は授業に出る人もいるため、どうしても個人練習をすることが多くなってしまいますが、各自がしっかりと目的意識を持って練習に取り組んでいるので、逆に全員が集まる土日は、相当に密度の濃い練習ができます。また、年に2回ほど、地域の少年野球チームを対象に野球教室を開いており、野球を通して地域の方々との交流を深めています。

11月半ばに新チームがスタートしました。自分たちのためにも、また、いつも神宮球場で我々の背中を後押ししてくれる応援部、ファンの方々のためにも、東大野球部史上初の優勝に向かって日々精進してまいりますので、皆さん応援宜しくをお願いします。(硬式野球部 荒木 尚)



★★DATA★★

創立：大正8(1919)年
 人数：男子35人 女子4人
 練習場所：弥生地区硬式野球場
 練習日：平日13:30～、土日・祝日9:00～
 年間予定：3月 春合宿
 4月 春季リーグ戦
 6月 東京地区国公立大学体育大会
 7月 京都大学定期戦
 8月 夏合宿、全国七大学総合体育大会
 9月 秋季リーグ戦
 今年の成績：春季リーグ戦6位(1勝10敗)
 秋季リーグ戦6位(1勝10敗)
 東京地区国公立大学体育大会優勝
 京都大学定期戦優勝
 部長：河野 通方(大学院新領域創成科学研究科教授)
 監督：大沼 徹(昭和49年硬式野球部OB)
 HP：<http://www.tokyo-bbc.net/>

応援部

私たち応援部は、応援を中心となって引っ張るリーダー、ダンスやスタンツで魅せるチアリーダーズ、音楽で選手を鼓舞する吹奏楽団の3パートから構成されています。普段はパートごとに練習していますが、応援や夏と春の強化合宿では3パート一体となって活動しています。主な応援活動の場としては、大学野球の聖地・神宮球場での東京六大学野球応援、先日1部復帰が確定したアメリカンフットボール(WARRIORS)の応援などがありますが、他にラクロス・ア式蹴球・相撲・ハンドボール・スキー・ヨット・駅伝などの応援にも行っています。



毎年11月には一年の活動成果を披露する「淡青祭」というステージを開催しており、今年もたくさんのお客さまに御来場いただきました。他には東京六大学応援団連盟による様々な合同ステージにも参加し六大学間の親睦を深めています。12月24日(土)には吹奏楽団・チアリーダーズによる第31回定期演奏会が行なわれます。応援以外の活動として取り組んでいる座奏・ステージマーチングの発表です。是非御来場ください。



東大応援部は昭和21(1946)年、硬式野球部が六大学野球で準優勝したことを契機に創部し、再来年には創部60年を迎えます。これまで受け継がれてきた伝統・精神を重んじながら、これからの東京大学全体の一推

進力となれるよう部員一同日々の活動に励んでいきたいと思っております。(応援部 石ヶ森 三佳)

★★DATA★★

人数：リーダー8名、チアリーダーズ22名、吹奏楽団43名
 年間予定：
 2月 受験生応援
 3月 合格発表デモ
 4月・5月 春季リーグ戦応援
 6月 六大学合同ステージ
 (「六旗の下に」「合同演奏会」)
 8月 夏季強化合宿
 9月・10月 秋季リーグ戦応援・アメフト応援
 11月 淡青祭(応援部部祭)
 12月 定期演奏会
 HP：<http://www.todai-ouen.com/>

学生部

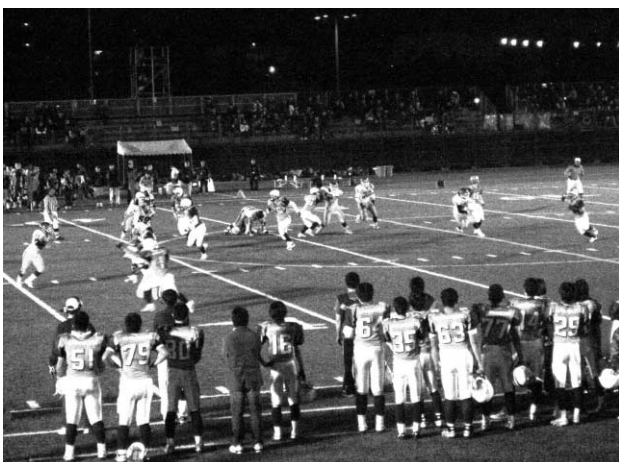
WARRIORS関東リーグ1部昇格!

大学アメリカンフットボールリーグ戦において、昨年2部降格していた東京大学運動会アメリカンフットボール部（WARRIORS）が、1年で念願の1部昇格を果たした。

今年はリーグ再編の時期にあたるため、リーグ1位になれば1部へ自動昇格、2位は入替戦に出場することになっていた。「不動心」をスローガンに掲げ1部昇格に向けて、熱きリーグ戦が開幕した。

リーグ初戦から5試合を危なげなく勝ち進めてきたWARRIORSは、決戦の日を6戦目の11月13日、アミノバイタルフィールドに迎えた。対戦相手は桜美林大学。それまで4勝1敗とリーグ2位で勝ち進んでいた強豪だ。当日は、秋晴れのもと絶好のフットボール日和となった。

クォーターバックで主将を務める樋口（法・4）のキーププレーで幸先よく先制すると、今年破壊力の増したオフェンス陣は次々とパスをヒットさせ、危なげない試合運びをみせた。第2Q（クォーター）に敵陣で得たチャンスでは、湊（法・4）がタッチダウンランをあげ、前半を21-3とリードして折り返した。



昇格をかけた決戦、試合、応援ともに熱が入る

後半に入っても試合の主導権を渡さないWARRIORSは、副将・江川（工・4）へのパスが決まってさらに加算。秋シーズン2桁失点を許していないディフェンス陣も、鷹本（工・4）や三浦（工・3）らにビッグプレーが飛び出し、桜美林大学のオフェンスに追加点を許さなかった。最終第4Qには和田（理Ⅱ・2）がこの試合2本目のタッチダウンパスを決め、さらに試合終了間際には鳥巢（法・4）へのタッチダウンパスが決まり、結局44-3と圧勝した。最終戦を残し6戦全勝で2部Bブロックの優勝を決めたWARRIORSは、1部リーグへの自動昇格となった。



昇格を決め、喜びを爆発させる選手たち

201年にプレーオフに進出して以来低迷していたWARRIORSではあるが、今年は下級生の活躍も目立ち、来年以降の1部での戦いぶりに大きな期待がかかる。

本郷消防署が本学で体験型防災訓練を実施

11月10日（木）、11日（金）の2日間にわたり、本郷消防署が本学構内で体験型防災訓練を実施した。本郷地区は住民の高齢化にともなって救助・救援を手伝う「若い力」が不足してきているため、災害時には本学学生が自主的に地域防災貢献活動を行なう機会が増えることが予想される。今回の訓練は、そのような地域防災貢献活動に必要な救助・救援の知識・技術を習得するために行なわれた。

防災訓練当日は、本学構内の弓道場前道路に様々な体験訓練コーナーが設置された。もっとも参加者の目を引いたコーナーは、震度2から震度7までの地震の揺れを段階的に体験できる「起震車」。恐る恐る起震車に乗り込んだ学生達は、皆、その揺れの激しさに驚きを隠せない様子であった。



震度7を体験できる「起震車」

第1回駒場キャンパス技術発表会 開催される

火災の煙の怖さを体験できる「煙体験ハウス」も注目の。火事の際、煙を吸わずに上手に避難するための訓練装置で、ビニール製のハウスの中は迷路になっている。参加者はもうもうと煙の充満する中を手探りで進み、その怖さを実感していた。



煙体験ハウスの中は迷路になっている



消火器を使った消火訓練

他にも、消火器による消火訓練、応急救護訓練、放水訓練、チェーンソー操作訓練等、多彩な体験メニューが用意され、消防職員の皆さんの指導のもと、集まった学生達は興味津々で参加していた。



小型ポンプによる放水訓練

生産技術研究所と教養学部で個別に行われてきた技術発表会が今年より合同になり、駒場キャンパス統一の技術発表会として10月27日（木）10:00から生研大会議室（研究実験棟）において開催された。

当日は前田生産技術研究所所長、小島大学院総合文化研究科副研究科長、高間技術発表会実行委員長の挨拶があり、一般講演15件、特別講演1件、誌上发表1件を含め17件の発表があった。発表者は勤続10年前後の中堅職員、20年～30年のベテラン職員がほぼ半数ずつであった。また、新たに、教育実験・演習・実習指導技術等について教養学部からの発表もあった。特別講演は、高い技術が必要な分野に活路を求め、単品非量産精密加工及び試作製品製作で活躍されてきた技術者の方の講演であった。どの発表でも質疑、討論が活発に飛び交い、講演時間も足りなくなる状況が多数見られた。参加者総数は100名余であった。

恒例の所長賞受賞者は2名。機械・生体系部門の板倉博さんによる「東大生研海洋工学水槽の改良措置について―計測・制御関連を中心に―」、試作工場の谷田貝悦男さんによる「放電加工による擬似雌ねじ加工の紹介」がそれぞれ受賞した。

この発表会が発足したことにより、駒場キャンパスの全ての部局の技術職員等が自由に発表できる場ができた。今後も、「駒場キャンパスの技術職員が協力して企画・運営を行い、研究支援業務、研究業務の成果を発信・議論する場」となっていくことであろう。また、キャンパス合同という形態になったことで、技術交流も含めて、今後もより一層の発展が望めることであろう。本発表会を開催するにあたり、駒場事業場の皆様から多大なご協力をいただいたことをここに記して謝意を表したい。



技術発表会風景

大学院農学生命科学研究科・農学部
富士演習林創設80周年記念行事が無事終了

大正14(1925)年の創設以来80周年を迎えた富士演習林では、10月19日(水)から24日(月)の6日間にわたりさまざまな記念行事が行われた。

初日の19日(水)から23日(日)にかけて開催された本学の学生によるガイドウォークでは、延べ74名の参加者が「オリジナル図鑑コース」、「森の管理人コース」、「クラフトコース」の3つのコースに分かれ、約2時間の森の散策を楽しんだ。また、22日(土)と23日(日)には本学の演習林として初めてのオリエンテーリング大会が開催され、天気にも恵まれた日曜日の競技オリエンテーリング大会には106名が参加してタイムを競った。土曜日の親子オリエンテーリング大会はあいにくの小雨模様で参加者は5名にとどまったが、全員が3つのステージをクリアし完走証明証を手にした。

最終日の24日(日)は午前中に會田農学生命科学研究科長、高村山中湖村村長、木村山梨県林務長、河野運動会理事長など多くの来賓を迎えて、秋晴れの下、山中寮前の戸外で記念式典が行われた。来賓からは「100周年をめざしてがんばってほしい」との激励の挨拶をいただき、地元や東大運動会との連携をより強めながらさらなる発展を、との思いを強くした。また、午後には山中湖村情報創造館で記念講演会が行われ、一連の記念行事の最後を締めくくった。



間伐の方法を習う「森の管理人コース」の参加者

合い、改善点を模索するために設置されています。今年度は6月18日(土)に第1回目の三者協議会が開催され、「学びの共同体ってなあに？」というテーマで活発な議論が交わされました。

今回のテーマは「ルールと意識～学校生活における様々な問題を通して～」。生徒たちからは、全体集会の時に生徒の私語が多いことや、今年度から新しくなった上履きのかかとを踏む生徒のマナーの悪さが報告されました。そして「先生がそれらの生徒に対してもっと厳しくすべきである」という意見が出されました。

しかし一方で、教員からは「生徒を教師がしかるのは簡単。なぜ友だち同士で注意しあうことができないのか」という意見が出され、また保護者からも「ルールは守らせるものなのか？ 皆が気持ちよく過ごすためのものではないか。そのためには、先生と生徒のコミュニケーションの場をもっと増やしてほしい」といった発言が出されました。また、一部の保護者からは、子どもの下校時刻が遅くて大変に心配していることが指摘され、部活動が行われる場合の学校側の対応や、生徒同士の意識がどうであるかなど話し合いが行われました。

最後に、草川剛人副校長は「三者協議会は、三者による認識の場である。ここで出された問題を解決していくためには、今回の話し合いの結果を三者で持ち帰り、それぞれのグループの中から運動を起こしていく必要がある」と述べ、その話し合いの結果を、次回の三者協議会で報告し合うことが確認されました。



三者協議会の様子

大学院教育学研究科・教育学部
**教育学部附属中等教育学校で
 2005年度第2回三者協議会が開催**

10月15日(土)10時から12時まで、教育学部附属中等教育学校で今年度2回目となる三者協議会が開催されました。三者協議会は、生徒、教師、保護者の三者が学校内のさまざまなテーマについて対等な立場で意見を述べ

大学院教育学研究科・教育学部
**教育学部附属中等教育学校
 「ピアノと講演のつどい」**

11月5日(土)午後、附属学校大教室において、PTA文化委員会主催で日韓友情年2005にちなんで「ピアノと講演のつどい」が行われ、120名を超える保護者・生徒・職員が聴講しました。

第1部「ピアノ演奏」では、本校5年生の内田一也君がショパンの「バラード3番」、「ふるさとの春」、冬のソナタでおなじみの「最初から今まで」、「アリラン」を演奏しました。

第2部「在日を生きたら」とは神奈川大学教授の尹健次(ユン・コョンチャ)先生の講演が行なわれました。



講演する尹健次先生

先生は、まず、京都での幼少時代のこと、本学大学院で学ばれたこと、民間企業で10年間お勤めになった後、教員となられたことなどを話されました。そして、「青年時代までは自分で選択できないことが多々あったが、後半生は『自分で生きている』という実感がある」と述べられました。さらに、話題は「日本と韓国・朝鮮」という大きなテーマへと移りました。

「戦後の日本の最大の問題は『アジアとの問題』であり、すぐ隣にある『朝鮮との問題』である。一国の歴史教育は、その時代の国際的な理解と認識のうえに行なわれるため、教育を受けてきた人々に責任はないかもしれない。しかし、日本の歴史教育を受けてきた人々が中国人・韓国人と話をすると、話が噛み合わないことがある。1910年から1945年の間に、朝鮮の全国民の10%、約240万人が日本に強制連行されたこと、国会議事堂・東海道線・羽田空港・数多くのダムの建設などに多くの朝鮮人が関わったことを多くの日本人は知っているだろうか」。先生は以上のように述べられたうえで、『日本の歴史用語と朝鮮の歴史用語を対比した正誤表』を提示され、戦後の日本の歴史教育において、「歴史用語の置き換え」があったことを指摘されました。

最後に、先生は「これからも日本と朝鮮は隣国であることを意識して仲良くしていくべきである。仲良くするためには、いろいろと方策を考えて、やってみることが大切である。相手の弱さを認めることができれば、たとえ自分が弱い人間であっても相手を思いやる過程で強い人間になれるだろう。皆さんも、これからは、より強く生き、しっかり生きていってほしい」と強調して話を結ばれました。

大学院公共政策学連携研究部・公共政策学教育部 国際交通政策研究ユニット (ITPU) 発足 のお知らせ

このたび、公共政策大学院に国際交通政策研究ユニット (ITPU) が発足しました。ITPUは、グローバル化と地域主義が同時に進行する21世紀にふさわしい国際交通システムのあり方に関する研究を推進し、新しい政策形成や学生の指導教育に資することを目的として、平成17年10月にスタートしました。

ITPUでは国際交通システムに関する制度の調査、経済分析、制度見直しを考慮したインフラのあり方等に関する研究を行います。また、国際的なシンポジウム、学内セミナー等を開催し、国際的なフォーラム機能を担います。さらに、国際交通政策ディスカッション・ペーパー・シリーズの刊行、ホームページの設営等により、知識創造・情報発信機能の向上にも取り組みます。

12月15日(木)には、第1回の公開セミナーと設立記念祝賀会を開催します。

問い合わせ先：

公共政策大学院ITPUセミナー事務局 (大下・木村)

内線：21324 E-mail：itpu@pp.u-tokyo.ac.jp

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/ITPU/seminar/index.htm>

医科学研究所

医科学研究所動物慰霊祭行われる

11月10日(木)12:00から、医科学研究所敷地内の動物慰霊碑前で、平成17年度動物慰霊祭が執り行われた。医科学研究所では医科学の発展のため貴重な知見を与えてくれた実験動物が研究所の発展に大きく寄与している。



動物慰霊碑前で献花する山本所長

当日は、山本雅所長から慰霊の言葉が述べられ、甲斐知恵子実験動物研究施設長から1年間の動物実験についての概要報告があり、引き続いて参加者全員が尊い動物

の御霊に思いをいたし、献花がしめやかに行なわれた。動物を利用した研究に従事する研究者を中心に250名を超える教職員・大学院生等が参列し、滞りなく終了した。



動物慰霊碑前で献花する教職員

分子細胞生物学研究所

分子細胞生物学研究所動物慰霊祭 執り行われる

第8回「分子細胞生物学研究所実験動物慰霊祭」は10月25日（火）11:00より、農学部附属家畜病院奥の動物慰霊碑前において執り行われた。当日は秋晴れの空の下111名の参列者があり、宮島所長の挨拶、内藤動物実験委員長からの一年間の動物実験概要の報告、引き続いて教職員・学生等参列者による焼香がしめやかに行われた。

分生研では研究所本館地下のSPFマウス実験施設及びウサギ飼育室、本館玄関前の新動物舎、そして生命科学総合研究棟地下の実験動物施設を利用して、多くの教職員・学生等が遺伝子改変マウスの作製及びその解析、抗癌剤の評価、神経系や造血系の初代培養細胞の分離、タンパク質の精製、抗体の作製などの目的で実験動物を使用している。その数は過去一年間にマウス約14000匹、ラット36匹、ウサギ10羽にも上り、これらの動物実験で得られた新しい知見は、既に学会や学術論文に発表され、それぞれの専門分野において高く評価されている。

分生研における動物実験は今後、ますます盛んに行われていくと思われるが、「動物の愛護及び管理に関する法律」（昭和48年）、「実験動物の飼養及び保管等に関する基準」（昭和55年）を遵守し、東京大学動物実験実施マニュアル並びに本研究所の動物実験規則に基づいて、必要最小限の動物による最大限の研究成果が挙げられるよう努めていきたい。ここに、分生研の研究活動のため尊い命を捧げてくれた動物達の御霊に感謝と追悼の意を表するとともに、関係者各位のなお一層の努力を求めるものである。



焼香をする参列者達

附属図書館

留学生向け図書館ガイダンスを開催

秋季入学の留学生向けに総合図書館・情報基盤センター共催の図書館ガイダンスが開催された（10月12、13日ほか）。はじめて、部局の新入生オリエンテーションと連携した形で行い、工・文・農の留学生をはじめ自由参加を含め6回で計54名の参加があった。

ガイダンスは英語または日本語により行い、総合図書館から、衛星放送や外国新聞、留学生向け図書、コンピュータの利用、部局図書館でのサービスなど図書館利用案内を、データベース講習会ではOPAC（オンライン目録）やGACoS（電子的学術情報ゲートウェイ）など基本的なデータベースの使い方を紹介した。

留学生達からは総合図書館の歴史ある雰囲気にも感銘を受けた様子がかがえ、活発な質問もあり、このガイダンスが今後の大学生活に活かされることが期待される。



データベース講習会

今後の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1325	学生生活実態調査特集号（予定）		
1326	12月7日（水）	12月14日（水）	12月20日（火）
1327	1月4日（水）	1月11日（水）	1月17日（火）

情報基盤センター

ICカードによる出欠席管理システムの開発

情報基盤センター情報メディア教育部門は、東京大学ユーティリティカード（UTcard、ICカード機能付き学生証・教職員証）のIDをハンディターミナルで読み取る事で採取し



UTcardを読み取る様子

た学生の出欠情報を学習管理システムCFIVEで管理する、ICカードによる出欠席管理システムを、NTTコミュニケーションズ、DENSOとの三者で共同開発した。

本システムでは、授業中に教員やTAがハンディターミナルという小型の端末を用いて、UTcardから全学共通ID（通称:共通ID）を読み取る。授業終了後、ハンディターミナルを専用の通信ユニットに置いて簡単な操作をするだけで、授業への学生の出欠情報は学習管理システムCFIVEに登録される。

CFIVEにログインする事で、教員やTAは受講した学生の授業毎の出欠状況を管理する事ができ、また、学生はどの授業に出席したかを確認する事ができる。

授業番号	受講者名	出席
g5a1-7	g5a1-7	出席
g5a1-9	g5a1-9	出席
g5a1-6	g5a1-6	出席
g5a1-7	g5a1-7	出席
g5a1-9	g5a1-9	出席
g5a1-2	g5a1-2	出席
g5a1-9	g5a1-9	出席
g5a1-2	g5a1-2	出席
g5a1-6	g5a1-6	出席
g5a1-5	g5a1-5	出席
g5a1-9	g5a1-9	出席
g5a1-7	g5a1-7	出席
g5a1-6	g5a1-6	出席
g5a1-5	g5a1-5	出席
g5a1-3	g5a1-3	出席
g5a1-3	g5a1-3	出席
g5a1-0	g5a1-0	出席
g5a1-6	g5a1-6	出席
g5a1-2	g5a1-2	出席
g5a1-6	g5a1-6	出席
g5a1-3	g5a1-3	出席

CFIVEによる出欠席管理

本システムは、学術俯瞰講義での授業の出席管理で採用され、本年10月から教養学部の下で実験的に利用されている。出欠席管理システムを利用したいとの要望が多数あれば、来年度以降学内向けのサービスとしてシステムを公開する事も検討している。

(問い合わせ先)

情報基盤センター情報メディア教育部門CFIVE担当

c5-support@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

総務部

山上会館・山上会館龍岡門別館の冬季期間の休館について

お知らせ

山上会館・山上会館龍岡門別館では、下記のとおり休館とさせていただきます。

休館日：12月28日（水）～1月3日（火）

大学院理学系研究科・理学部

平成19年度大学院理学系研究科

・物理学専攻修士課程入学試験について

お知らせ

平成19年度より、物理学専攻修士課程入学者選抜方法が変わります。英語の選抜試験を廃止し、替わって出願時にTOEFLのスコアの提出を求めます。これにともない、筆記試験は以下ようになります。

- ・数 学 2 題
- ・物理学 4 題(必修3題、選択3題のうち1題を選択)

<TOEFLスコアについて>

Examinee's Score Record のコピー

(願書と一緒に提出すること)

Official Score Report

(ETSから東京大学大学院理学系研究科に直接郵送されます)

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻のTOEFLコード番号は8863です。Official Score ReportはETSから東京大学大学院理学系研究科に直接郵送されますので、TOEFL受験の際には解答用紙にこのコード番号を記入して下さい。これまでに受験したTOEFLのスコアレポートが必要な場合はScore Report Request Formにコード番号を記入して下さい。(注：東京大学9259と理学系研究科8002-01では請求しないこと)

スコアの有効期限は2年間ですので2004年9月1日以降に受験したものに限りです。大学院入試までの間に開催されるTOEFLの試験は回数に限られています。スコアが送られてくる時期を考慮の上、受験してください。

大学院理学系研究科・理学部
スペクトル化学研究センターシンポジウム
「生命とスペクトル」開催

シンポジウム・講演会

理学系研究科附属スペクトル化学研究センターでは、下記のとおり公開シンポジウムを開催します。このシンポジウムでは、理学系研究科に所属される先生に、物理・化学・生物の学問の垣根を超えて「生命とスペクトル」についての最新の研究成果をわかりやすくご講演いただきます。また、講師のグループによるポスター発表も行います。講演の終了後に簡単な懇親会も予定していますので、ぜひご出席ください。

主催：理学系研究科附属スペクトル化学研究センター

日時：12月3日（土）

場所：理学部化学教室講堂（理学部化学本館5階）

プログラム：

- 開会の辞 濱口 宏夫
 （スペクトル化学研究センター長）
- 10:00～10:45 梅澤 喜夫（化学専攻）
 生きた単一細胞内の情報伝達過程を可視化検出する光プローブ
- 10:45～11:30 中野 明彦（生物科学専攻）
 カラーライブイメージングによる細胞内トラフィックの謎解き
- 11:30～12:00 岩田 耕一
 （スペクトル化学研究センター）
 時間分解分光法で観測する化学反応：現状と可能性
- 12:00～13:00 昼休み
- 13:00～13:45 桑島 邦博（物理学専攻）
 緑色蛍光蛋白質（GFP）のフォールディング
- 13:45～14:30 橘 和夫（化学専攻）
 低分子天然物の構造解析と生体高分子との認識におけるスペクトル化学
- 14:30～15:00 小林 昭子
 （スペクトル化学研究センター）
 赤外線領域に電子吸収極大を持つ単一成分分子性金属結晶
- 15:00～15:30 コーヒーブレイク
- 15:30～16:15 濱口 宏夫（化学専攻）
 空間と時間を分解した分光学：分子から細胞まで
- 16:15～17:00 山本 正幸（生物化学専攻）
 メッセンジャーRNAの安定性を介した減数分裂の制御機構
- 閉会の辞 小林 昭子
 （スペクトル化学研究センター教授）

17:00～18:30 懇親会

（懇親会費は、一般2,000円、学生無料です。当日会場にて申し受けます。）

申込み：特に事前申し込みは不要です。参加無料です。

問い合わせ先：

理学系研究科附属スペクトル化学研究センター

岩田 耕一

電話：03-5841-4600

E-mail：iwata@chem.s.u-tokyo.ac.jp

大学院情報学環・学際情報学府
総合分析情報学コースの設立について

お知らせ

大学院学際情報学府（学府長：花田達郎）は、下記の通り、平成18年度より新しく「総合分析情報学コース」を設立します。本総合分析情報学コースは、主にコンピュータサイエンスやコンピュータネットワークの基礎を、例えば情報科学・工学分野や電気電子工学分野、通信工学分野における教育や業務を通じて習得した者を対象として、コンピュータサイエンスをベースとして大量のデジタル情報を分析する分析情報学の学際的な専門教育を実施します。具体的には、例えば、コンピュータネットワーク上の各種情報の断片の集合からコンピュータネットワークシステムの脆弱性や防衛策を明らかにする手法、合成開口レーダー衛星等の観測衛星から得られる膨大なデジタル情報の解析などを実践します。こうした現実社会に深く関わる技術課題に興味を持ち、実社会においてCIO（Chief Information Officer）等として公共政策やビジネス展開を担える人材並びに、分析情報学及び計算機科学の研究者を育成します。

本コースは平成18年4月より設立される予定のため、平成18年1月に入学試験を実施します。受験者のための入試要項及び案内は本年11月初旬より、インターネット等を介して配布しています。なお、入試等に関する情報は、大学院情報学環・学際情報学府のWebページを参照してください。

1. 「総合分析情報学コース」概要

■修士課程

- 募集数 約20名程度（社会人特別選考枠若干）
- 入試日程 平成18年1月14日（土）（筆記試験）、15日（日）（口述試験）

■博士課程

- 募集数 約8名程度
- 入試日程 平成18年2月11日（土）（口述試験）

■担当（予定）教員

坂村健教授、玉井哲雄教授、越塚登助教授、
中尾彰宏助教授、他

※平成18年度4月開設のため、担当教員が一部決ま
っておりません。

2. 設立記念シンポジウム及び入試説明会

■第一回（開催済）

- 日時：11月26日（土）14:00～16:00
- 場所：法文2号館1番大教室（本郷キャンパス）

■第二回

「大学院学際情報学府総合分析情報学コース」説明会

- 日時：12月14日（水）15:00～16:00
- 場所：
東京国際フォーラム（有楽町）地下2階
[展示ホール] TRONSHOW2006 会場内シアター1
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1
JR・地下鉄有楽町駅より徒歩1分／
JR東京駅より徒歩5分
- 申込み方法：<http://www.tron.org/show.html>
上記アドレスのシアタースケジュールをご覧のうえ、
来場者事前登録のページから、お申し込みください。
- 問い合わせ先：infoanalysis@iii.u-tokyo.ac.jp

■第三回 12月中旬開催予定

募集要項等、最新の詳細情報は以下のWebページを
ご覧ください。<http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/>

空間情報科学研究センター

ArcGISサイトライセンス導入のお知らせ

お知らせ

空間情報科学研究センターでは、GISソフトウェア：
ArcGISのサイトライセンス（ESRIジャパン社）を導入
しました。本学に所属する方でかつ本学内であれば、サ
イトライセンスに含まれる所定の製品を利用することが
できます。授業や演習など教育目的だけでなく、研究目
的での利用も可能です。

本サイトライセンスの利用を希望される方は、ホーム
ページをご覧ください。<http://sls.csis.u-tokyo.ac.jp/>
※一部ページは学内からのみ閲覧可能となっています。

本サイトライセンスに含まれる製品は以下の通りです。

- ・ ArcGIS Desktop（ArcView、ArcInfo、エクステン
ションを含む）（Ver 8、Ver 9どちらも入手可）
- ・ ArcInfo Workstation ・ ArcIMS ・ ArcSDE
- ・ ArcGIS Server ・ ArcPad ・ 数値地図変換ツール

本サイトライセンスをご利用いただき、皆様のご研究、
教育活動の幅が広がることを期待しています。皆様のご
利用をお待ちしています。

空間情報科学研究センター

第1回空間情報科学研究センターGIS講習会 「はじめてのArcGIS」

お知らせ

この度、サイトライセンスを提供していますArcGIS
の講習会を企画しました。今回は特に初心者を対象とし
て、GISとはどんなことができるのかを実習を通して学
んでいただきます。是非ご参加いただき、当センターの
サービスを研究にご活用ください。

- 日時：12月15日（木）10:00～16:00
- 場所：柏キャンパス 総合研究棟4階
470号室（4センター共有会議室）
- 講師：古橋 大地
（空間情報科学研究センター 研究支援推進員）
- 対象：ArcGIS9をはじめて使う方
（但し MS-EXCEL を使ったことがある）
- 内容：ArcGIS9の基本操作とCSIS提供サービスを実習
を通して学ぶ。
- 費用：無料
- 募集人数：定員20名（定員になり次第、締め切ります）
- 申込み資格：本学所属の学生・教職員にのみ限定
- 申込み/問い合わせ先：training@csis.u-tokyo.ac.jp
氏名、所属、内線、メールアドレスを添えて上記アド
レスまでご連絡ください。

保健センター

年末年始の診療日程のお知らせ

お知らせ

年末年始は下記のとおり業務を行います。

	本郷支所	駒場支所	柏支所
12/26(月)	通常通り	午後休診	通常通り
12/27(火)			午後休診
12/28(水)	午後休診		午後休診
12/29(木) ～1/3(火)	休診		
1/4(水)	午前休診	午後休診	午後休診
1/5(木)	午後休診		

コミュニケーションセンターだより No.8

■コミュニケーションセンター 商品カタログ

コミュニケーションセンターは、11月で、昨年のホームカミングデーでの仮オープンから1周年を迎えました。今回、より多くの方々にコミュニケーションセンターを知っていただくために、商品カタログを作成しました。

今回作成したカタログでは、以下の5つのカテゴリーで、32アイテムを掲載しています。

- <研究成果物>
御酒、光触媒シート、クリアファイル など
- <革製品>
手帳、ブックカバー、財布、名刺入れ など
- <テーブルウェア>
カップ&ソーサー、マグカップ など
- <ファッション>
Tシャツ、ストラップ、時計 など
- <ステイショナリー>
ノート、ペン、ポストカード など



色や絵柄のバリエーションもカラー写真でご紹介しており、カタログを利用した代金引換・口座振込・現金書留などでの購入も可能です。カタログはコミュニケーションセンターにて配布していますので、是非ご利用ください。
(担当：渉外本部 曾我)



The University of Tokyo

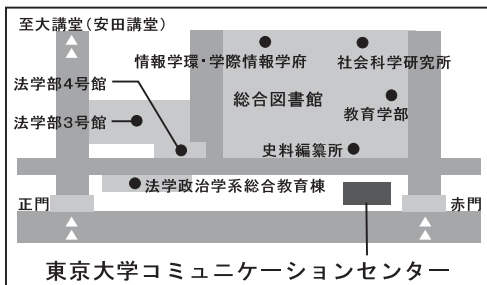
東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html

12月は、日曜・祝日もOPENいたします。
OPEN：11：00～17：30



噴水

本部職員を対象に家族参観を実施

11月9日(水)に、プロジェクトK家族参観チームは職員の家族に職場を見学してもらう家族参観を実施しました。今回は本部から2組のご家族に参加していただきました。当日は、天候に恵まれ、本郷キャンパスの美しさを満喫するには絶好の日となりました。

ツアーは15時に赤門に集合し、図書館、IML(インテリジェント・モデリング・ラボラトリー)、安田講堂などを見学してから、本部棟に行くというコース。IMLでは、3Dメガネをかけてスクリーンをみると立体的にみえるという実験装置を使って、空中散歩を楽しみました。

本部棟では、まず初めに、総長室を見学しました。今回は幸運にも豪華な応接セットに座りながら、総長のお話しを伺うことができました。

総長室ではさすがに緊張していた職員も、それぞれの職場にいくとはりきって家族を案内していました。



総長室にて、総長と一緒に記念撮影

ご家族は職場の方々が用意してくださった飲み物やお菓子を召し上がりながら、職員のデスクに座ったり書類の山をみて驚いたりしていました。



職場見学の様子：総務部広報課にて

2時間という短い時間でしたが、家族の中で新しいコミュニケーションが生まれるきっかけとなれば幸いです。最後に、ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた総長および秘書室の皆様、図書館、IML、各職場の皆様にご心より御礼申し上げます。

(プロジェクトK-12家族参観チーム)

※プロジェクトKとは

本部の若手職員を中心に、既存の部課組織では取り組みにくいサービスを実施するというプロジェクト。家族参観チームでは、「東京大学が職場であること」に誇りをもてるようなきっかけ作りとして、家族参観の実施を目指しています。

EVENT INFO

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
第106回オルガン演奏会 ※1323号参照	12月1日(木) 18:30~	教養学部900番教室	大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 http://organ.c.u-tokyo.ac.jp
シンポジウム 「日本政治の現在形—小泉/ポスト小泉」	12月3日(土) 13:30~	駒場キャンパス 数理科学研究科大講義堂	大学院 総合文化研究科 国際社会科学専攻 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/topics/contents/kiss20051203.html E-mail:shakai@waka.c.u-tokyo.ac.jp
スペクトル化学研究センターシンポジウム 「生命とスペクトル」 ※20ページ参照	12月3日(土)	理学部化学教室講堂 (理学部化学本館5階)	大学院理学系研究科 附属スペクトル化学研究センター http://www.chem.s.u-tokyo.ac.jp/%7EESpectrum/sympo.html
アメリカ太平洋地域研究センター 「2005年日豪シンポジウム」	12月3日(土) 午後 4日(日) 午前	教養学部(駒場) 18号館ホール	大学院総合文化研究科・教養学部 国際研究協力室 03-5454-6827 http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/indexjpn.html
第112回東文研セミナー 「地域をつなぐ:なぜ地域研究者が東ティモールのコーヒーを売り歩いているのか」	12月7日(水) 18:00~	東洋文化研究所3階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 池本幸生 03-5841-5877
平成17年度第4回東文研シンポジウム Community-Building and Dynamics of International Politics in East Asia	12月9日(金) 13:30~	東洋文化研究所3階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
水上運動会(ボート) ※1322号参照	12月10日(土)	戸田橋艇庫	東京大学運動会総務部 03-5841-2510 http://www.undou-kai.com/
生物生産工学研究センターシンポジウム 「イネにおける病害抵抗性研究の現状と課題」 ※1322号参照	12月12日(月) 13:00~	弥生講堂一条ホール	生物生産工学研究センター 山根久和 03-5841-3067 E-mail: ayamane@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/
教育測定・カリキュラム開発(ベネッセコーポレーション) 講座 公開講演会 ※1323号参照	12月12日(月) 12:30~	理学部1号館 小柴ホール	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/sokutei/
第1回 空間情報科学研究センター GIS講習会 「はじめてのARCGIS」 ※21ページ参照	12月15日(木) 10:00~	柏キャンパス 総合研究棟4階 470号室(4センター共有会議室)	空間情報科学研究センター 04-7136-4291 training@csis.u-tokyo.ac.jp
公共政策大学院国際交通政策研究ユニット(ITPU) 第1回公開セミナー 国際交通政策研究ユニット(ITPU)設立記念祝賀会 ※17ページ参照	12月15日(木) 公開セミナー 14:40~ 設立記念祝賀会 18:30~	公開セミナー:法学政治学系教 育総合棟101号室 祝賀会:山上会館1階談話室	公共政策大学院 (担当:大下、木村) 03-5841-1324 (内21324) Mail: itpu@pp.u-tokyo.ac.jp http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/ITPU/seminar/index.htm
アジア古籍保全講演会&ワークショップ ※1322号参照	12月16日(金) 10:00~	東洋文化研究所	東洋文化研究所図書室 03-5841-5893 http://institute.ioc.u-tokyo.ac.jp/library/news/asia_lectws.html
ダンス講習会 ※1322号参照	12月18日(日)	駒場第一体育館剣道場	東京大学運動会総務部 03-5841-2510 http://www.undou-kai.com/
第113回東文研セミナー 「哲学からみたセン<権利目的説>と<厚生判断の 情報的基礎>」	12月26日(月) 15:00~	東洋文化研究所3階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 池本幸生 03-5841-5877
第2回 愛知演習林シンポジウム 「緑のダム研究の最前線と市民・行政・研究者の協働」 ※1322号参照	1月28日(土)、 29日(日)	瀬戸蔵2階つばきホール(1月 28日) 東京大学愛知演習林赤津 宿泊施設講義室(1月29日)	愛知演習林 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/aichi/sympo2006.html
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
21世紀COEものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月~3月	三菱ビルコンファレンススクエ アエムプラス (東京駅丸の内南口)	ものづくり経営研究センター 03-5841-2272 http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
公開講座「高校生のための金曜特別講座」 (冬学期) ※1319号参照	10月14日(金)~ 2月10日(金)	教養学部11号館2階1106教室	教養学部社会連携委員会「公開講座」担当係 03-5454-6637 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005winter.html
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
展覧会「form.raum.idee—デッサウのパウハウスとハ レのラルク・モービエエンシュタイン美術デザイン大 学、世界の現代デザインを切り開いた二つの美学校—」 ※1321号参照	10月29日(土)~ 12月9日(金)	駒場博物館	大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 03-5454-6139
医学序論連続講座「医の原点」	11月1日(火)~ 12月13日(火) 各火曜日15:00~	医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂	医学部教務係 03-5841-3308 http://www.m.u-tokyo.ac.jp/
第32回生研イブニングセミナー 「環境に優しく、安心・安全で、快適な交通の未来に 向けて」	11月25日(金)~ 1月27日(金) 各金曜日 18:00~	生産技術研究所 駒場リサーチ キャンパス総合研究実験棟 (An棟)3階大会議室	生産技術研究所 総務課広報企画係 TEL 03-5452-6017~8 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
特別展示 「アフリカの骨、縄文の骨—遙かラミダスを臨む」展	11月26日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
公開講座 「標本は語る—自然の体系をめざして」 ※1322号参照	11/28(月)~ 12/2(金) 15:00~17:00	総合研究博物館内 講義室	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp

大学とイベント

大学にイベントはふさわしい活動か。逆に、大学はイベントに適した場所か。

大学構内においてもここ数年、シンポジウムや講演会といったイベントを目にする機会が増えたように思われる。研究業績を広く目に見える形で社会に問うことが求められるようになったことが、この機会を増加させている。また、社会の側からの発信を大学の側で受け止めるチャンネルが多くなったことも、このイベントの企画を増やすことにつながっている。そして、これらのイベントをイベントらしくしているのは、いつもと違った人々と著名人を迎えて、多くの学内外の人が集うなかで、華やかにことを運ぶという点にある。

しかし、イベントの準備には、いつも以上の時間と人手を必要とする。日々の営みの積み重ねに多くを依存する研究・教育という作業をその中核においた大学という組織に、そんなイベントはふさわしい活動なのか。また、照明や映像などの機器を備え、イベントにより彩りを与



えてくれそうな施設は、大学以外にも数多くある。これらの機器や環境が完備しているとはいえない大学は、果たしてイベントを行うのに適した場所なのであろうか。

若干の留保はあるかもしれないが、それでも大学とイベントは決して相性の悪いものではないと思う。イベントは、大学という場において産出された新しい知識や情報を発信し、また受信する機会として意味を持つばかりではない。

むしろ、イベントに集う人々は産出された知識を求めてだけではなく、その知識を産出した人々の姿を見、その生まれ出る場の物語を聴くことを期待しているのかもしれない。そこでは、公的な場で思わず垣間見せる研究者や著名人の私的な顔によって、客観化された知識や情報はその陰影を深くする。

何かわくわくするような新しいことが起こっている場として大学を開かれた形で表現すること。ロジスティックスがやっかいではあるものの、日常から少しだけ離れたイベントは、時々これを可能にしてくれるように思われる。

田辺 国昭 (大学院公共政策学連携研究部)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

No. 1324 2005年11月24日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

 **東京大学**
THE UNIVERSITY OF TOKYO